

事例 1

示 談 書

当事者（甲） 住所 ○○市○○区○○通○丁目○番○号
氏名 ○ ○ ○ ○
（乙） 住所 ○○市○○区○○町○丁目○番○号
氏名 ○ ○ ○ ○

当事者甲と乙の間において次のとおり示談した。

争いの実情

甲と乙とは、令和○年○月○日午後○時○分頃○○で口論の末喧嘩となり、乙が拳骨で甲の顔面を殴って全治一週間の傷害を甲に負わせたものである。甲乙互いに譲歩し、和解により次のとおり解決することに双方の意思が合致した。

第一条 乙は甲に対し損害賠償として治療費○万円、休業補償費○万円、慰謝料○万円、通院費その他○万円の合計○十万円を令和○年○月○日までに甲名義の○○銀行○○支店の普通預金口座番号○○○○○○○○に振り込むことにより支払う。もし、期限までに支払わないときは年率五パーセントの遅延損害金を付加して支払うものとする。

第二条 甲に将来後遺症が生じたときは、乙は甲に対し賠償義務を負うものとする。

第三条 乙は甲に対し謝罪するとともに誠意をもって本示談を締結する。また、甲は乙の求めがあれば、乙のために裁判所や検察庁に嘆願書を作成し提出するものとする。

第四条 甲と乙とは本示談書に定めるもののほか、一切の債権債務を有しないことを相互に確認する。

上記のとおり示談が成立したので本示談書二通を作成し、甲乙各一通を保有する。

令和○年○月○日

甲 ○ ○ ○ ○ 印
乙 ○ ○ ○ ○ 印